舟　は　スローライフ・持続可能社会　の　先進役　　2016 年 5 月

お 江 戸 舟 遊 び 瓦 版　429 号

水彩都市江東　　こころ美しい日本の再生　　安全・安心まちづくり

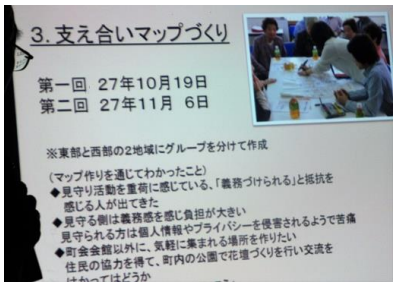
お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会　　江東区千田 13-10

第４回 江 東 区 助 け 合 い 活動連絡会

日時：2016 年 5 月 23 日　　所：古石場文化センター

はじめに：区内の高齢化が進む中、介護保険制度改正に伴い、江東区では介護予防・日常生活支援総合事業が 4 月からスタートしました。それに合わせ、区民と区民団体が中心になり、『江東区助け合い活動連絡会』を立ち上げるための活動が始まっています。

挨拶：世話人代表　渡辺恵司（大島２丁目町会長）



高齢化が進み、いろいろな問題があちこちで起こっていますが地域のみんなで助け合う仕組みづくり・習慣づくりを始めたところ、徐々に多方面の方々の参加を頂きありがとうございます。どんな仕組みができるか、生まれるかは未定ですが、区内にあるたくさんの町会、自治会、地域の組織や NPO 等、多様な自主団体が連絡しあい、安心安全な江東区をみんなで目指しましょう。

大島 2 丁目町会は、総戸数 2940 世帯、住民 5428 人、高齢者 570 人、町会加入率 76%、集合住宅世帯が約半数です。昨年、高齢者見守り支援事業に加入し、支え合いマップ作り、コミュニティ・ガーデンづくり、青空カフェ（昔遊び、囲碁、将棋等）を始めました。女性より外に出たがらない男性の参加場づくり！　ガーデンで子供の元気を高齢者に！

経過説明：小林孝（コープ南砂助け合いの会事務局長）　　＜高齢者の健康寿命を延ばす＞

江東区内で「助け合いのまちづくり」を進めるための４回目の連絡会になりました。区の総合事業と連携し、区内で住民主体の助け合い活動に取り組んでいる皆さんに呼びかけ連絡会を積みかさね、助け合い活動の交流とネットワークづくりを進めたい。行政は清掃・公園緑化・環境等々のタテ割りですが、市民は横につながり助け合う仕組みをつくりたい。3 年以内に 100 チームを目指し、江東区事例集を作り、誰もがいつ・どこからでも参画できるようにしたいので協力をお願いします。

地域包括ケアシステム構築・公的介護保険サービス参考事例　大江英樹（福祉部地域ケア推進課長）

厚労省、農水省、経産省合同で保険外サービス活用ガイドブックを出版された。国内の 40 団体近く（資生堂など）が保険外サービスを始めている。これらの事業を活用するなり、参考にして頂き、各地の地域包括ケアシステムづくりに役立てて欲しい。

http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/guidebook-zentai.pdf

参加者・参加団体の自己紹介・質疑

区内には町会をはじめ、多くの活動団体があり、それぞれが悩みを抱え、苦労している。介護問題も同様に、皆の身近な問題だ。何時自分が要介護状態になるか不安は増している。これをきっかけに住み慣れた地域や自宅周辺での助け合いが進展して欲しいと思う。

次回：　６月２９日（水）13:00～15:00　豊洲文化センター（ゆりかもめ線豊洲駅前）

多くの区民の方々、団体、町会・自治会等の方々の見学・参加をお勧めしたい！！

連絡先：　社会福祉協議会地域支援係　石井（03-3640-1200）

所感：遠くないうちに関東大震災も心配されている。また、いずれの地域の高齢化も進むことから、何とか市民、町会、全員参加の上手い助け合いの仕組みが必要と痛感される。（文責　中瀬）

第 21 回全国首長連携交流会

「あらためて現場からの　くにづくりを問う」

日　時：　2016 年 5 月 27～28 日
所　：　政策研究大学院大学
主　催：　全国首長連携交流会
事務局：　NPO 地域交流センターhttp://www.jrec.or.jp/

はじめに　全国首長連携交流会は、「現場に答えがある」という信念のもと、全国の有志首長が集い、自発的な交流の中で、地域からのまちづくり、国づくりに向けて、本音の意見交換を行うために、毎年開催している。

基調講演：「地域が生き残るための地域経営の方策について」　猿渡知之（総務省大臣官房審議官）

- 人口減少・高齢化が進む中、自治体がエンジンになり「しごと」をつくり地方から GDP を押し上げたい。分散型エネルギーインフラプロジェクトにより、家庭や企業の電気料金（約 18 兆円）の 1 割でも地域のエネルギー産業に回せれば、年間約 1.8 兆円が地域に還流する可能性がある！！
- 北海道夕張市では、ズリ（捨てられたくず石炭）を「調整炭」に再生し、発電所の燃料に再生利用。青森県弘前市では、小学校跡地にエネルギーセンターを新設し、市立病院など周辺の大型施設に熱や電気を供給する事業を展開し、快適なコンパクトシティを創造している。
- 公的年金収入や公共事業による仕事への依存を減らし、地域での内発的な経済活動の拡大を。

シンポジウム「地方創生と地域経営」　コーディネーター：大江正章（コモンズ代表）、
パネリスト：松永桂子（大阪市立大学）、崎田恭平（宮崎市日南市長）、松崎秀樹（浦安市長）、猿渡知之（総務省）

（松永）今、ローカル志向が広がっている。島根県立大学時代 7 年住んだ島根県の江津市の駅前商店街では、若い世代が「空き店舗ではさびしい」「気軽に立ち寄れる店があったらいいね」などと話し合ううちに、空き店舗だった珈琲店を自分たちでリノベーションして、内装工事費を稼ぎ、イベントでＴシャツやお酒を販売し、20 年ぶりにバーとして再生させている。

- 最近の若者の 1/3 が正規社員で、2/3 は非正規社員だ。彼らは自由と社会貢献が大切と考える。自治体は地域づくりコーディネーターとして、地域の牽引車として働いて欲しい。

（崎田）平成 25 年に市長に当選し、若い民間人を登用し、日南市マーケティング推進室を設け、日南市のイメージ戦略、企業とのコラボによる良い関係づくりを推進し、地域活性化を図っている。ＩＴ企業が次々と日南市に進出し、クラウドソーシングを活用した、外需獲得・雇用創出が成功し、2015 年地域情報化大賞を受賞した。子育ての主婦や高齢者、障碍者の働く場を創出した。
　他にはない公民連携を目指し、商店街再生を通じて、空き地の活用、賑わい創出を展開している。

（松崎）日南市と浦安市を比較すると、面積は 536 ㎢：16 ㎢、人口は 5 万人：16 万人と人口密度は 100 倍以上ともなる。浦安市における、一番の悩みは、若い都市、少子化で働く人が不足していることだ。そのため、定年職員のフルタイム再任用を始めた。

（猿渡）諸外国には定年制度はない。マイナンバーの活用、クラウドファンディングを広めたい。

（大江）今までは、より早く、遠く、効率がコンセプトであったが、これからの時代は、ゆっくり、近く、自由・自主性の時代になり、若者たちの「田園回帰」が本格化してくる。自治体はその支援に取り組むことが、地域創生のポイントになってきた。先ずは、歩いて地域を知ることが大切！！

分科会：　「循環型社会」「観光連携」「地域の人材育成」「公共施設の活用」「地域経営と女性」

ワークショップ「地域創生と地域経営」：　参加者全員

所　感：　第 21 回全国首長連携交流会に参加した。高齢化や少子化が大問題となっているが、各地の循環型社会づくりや LCC を活用した観光連携、公共施設の活用などの多様な取組、さらに地域の人材育成、女性活躍など、持続可能社会の仕組みづくりに共感させられた。　（文責　中瀬）